

BASARE

九重からこのえへ

KOKONOE

FreePaper

2025

読者の皆さまへ

意外と知らない 情報誌BASAREができるまで

ただいまっ! ふるさとっ!

祝70周年

九重町の未来を一緒に想像してみませんか?

20

Photo:MAIKO Model:SERA

いつも『BASARE』を愛読いただきありがとうございます。

2014年に創刊号を発行して早いもので10年が経ちました。

皆さまからの温かい応援とご意見が、私たちの大きな原動力となり

BASAREはここまで続けることができました。

読者の皆さまと、協力してくださった皆さまと共に築いてきたこの時間は

編集部にとっかけがえのない宝物です。

さて、『BASARE』は、今回の20号を区切りとして、

縁側^{えんがわ}でお茶を飲むように、ちょっと一息つくことにいたしました。

(ちなみにお茶菓子は、四角い形のキラキラ透き通った、

いろんなフルーツの色の寒天ゼリーのあれです。)

皆さまに支えられてここまで歩んでこられたことに、

改めてバより感謝申し上げます。



情報誌 **BASARE** が できるまで

九重町の公民館から年2回発行をしているフリーペーパー

各地区公民館職員、文化センター職員、地域おこし協力隊、
BASAREに興味を持った町民の方々と制作

これまで、30名近くの方が制作に携わりました！

まちの人を取材していく中で、
普段挨拶を交わすぐらいの関係では
知ることのできない
その人の素敵なところ、
考え方、想いの強さなどを
知ることができました。

野上公民館に
所属していた頃、
「九重の日常をありのまま
発信するローカルマガジンを
作りたい！」という
想いを、ほか3地区の
公民館職員に伝え、
BASAREは
スタート
しました。
取材を通して、
思っていた
以上に生き
生きと楽しく暮らして
いる人が多いことを知り
ました。BASAREの発行に
携わってくれた人に
感謝しています。

BASARE創刊時のメンバー

創刊当時は、
メンバー
それぞれの
完成イメージは
おぼろげながら
近いものを持って
いましたが、それを
きちんと言語化して
言葉に落とし込んでいく中で、
議論が白熱したことを
思い出します。

20号の制作に携わったメンバー

撮影に参加できなかったメンバー：
九重町地域おこし協力隊 鈴木仁美さん

このえんだいすき！

デザイン企画会社
株式会社サンカクキカク

4 チームで ミーティング

取材が完了したら取材内容をもとにレイアウトをどうするか、どの写真を使用するか、文章をどうするかを決めていきます。

創刊当時の
ミーティング



3 取材&撮影

協力者、カメラ担当、取材陣の予定と、天気予報が晴れの日にはスケジュールを調整していざ、取材と撮影に出発します。

いい写真を撮るためには、
太陽の光が欠かせません！



思い出話

最初は、「私なんか～」とみなさん照れた様子で取材がスタートするのですが、帰る頃には、「話を聞いてくれてありがとう」と言ってくださることが多かったんです。

私たちの方が感謝の気持ちでいっぱいなんですけどね♪



BASARE

CHECK!

制作の裏側

BASAREは、住民のみなさんの意見や情報を取り入れながら、取材、文章づくり、紙面レイアウトなど、すべてにおいて「ていねいさ」を心がけ作ってきました。



1 企画会議

発行3か月前

メンバーで集まり、特集内容を決めるためのアイデア出しをします。

頭に浮かんだアイデアは、
どんな内容でも発表をして
みんなでそのアイデアを
膨らませます！



No.20号 制作メンバー

2 取材のための 事前準備

特集ごとのチームに分かれ、

- ・特集内容のリサーチ
- ・協力者探し
- ・協力者への取材交渉を行います。



BASAREで

九重町のみなさんが
笑顔になりますように！

11 全戸配布

区長文書の全戸配布から町内の各家庭へお届けします。併せて、町外の店舗や施設にお渡しする準備をします。

10 納品

「届いたー!!!」と
叫びながら段ボールを開封して、冊子となったBASAREの仕上がりを、またまたドキドキしながら確認します。

9 印刷

ここまで来るとあとは、修正箇所がないことを祈りながら、冊子となったBASAREが届くのをドキドキしながら待ちます。

8 校了

締め切り日のギリギリまで修正箇所がないか確認をしいよいよ、校了(印刷しても良い状態)を迎えます。

5 レイアウトラフの 作成と原稿提供

デザイナーさんが紙面を制作するために必要な、レイアウトの設計図のような指示書を準備し、併せて、文章や写真などの制作に必要な素材をデザイン企画会社のサンカクキカクさんに送ります。



6 サンカクキカクさん 制作開始

毎回、私たちの頭の中のイメージを素敵なデザインで形にしてくれます。
※足りない素材を随時送り込みながらデザイナーさんからの初校を待ちます。



デザインだけでなく、
紙面に関しての様々な
悩みに対して、的確な
アドバイスをくれます。

思い出話

制作に携わらせていただき、九重町の温かい方々や魅力に触れることができて楽しかったです。
いつか祇園と野矢の盆踊りを見に行きたいと思っています！

7 校正のやり取り

サンカクキカクさんから送られてきた初校(出来立てホヤホヤ最初の制作データ)を見ながら、文章や文字の表記に間違いがないか、デザインがイメージに近いかなど、修正箇所の有無を確認して、細かくデザイナーさんと調整を重ねます。

た
だ
い
ま
っ
!ふ
る
さ
と
っ
!

kokonoe

「過去」BASAREに
登場してくれた方の
「今」を取材してきました。

Vol.5 登場

BASARE

当時16歳の
璃優さん

Hi!!



01

り
ゆ
大久保 璃優さん

撮影当時は高校生だった璃優さん。ホテル業界に興味を持ち、専門学校に進んだのち、海外研修を経て現在は福岡のホテルで働いている。

Vol.10 登場

BASARE

当時14歳の
蓮さんれん
梅木 蓮さん

02

撮影当時は中学生だった蓮さん。夢を叶えるため鉄道関係の専門学校に進み、車掌見習生としての日々を重ね、令和7年の1月末から本格的に車掌としての業務がスタートした。

Vol.12 登場

BASARE

しゅうと
森 柊翔さん

撮影当時は中学生だった柊翔さん。現在も、趣味の時間を大切にしながら、大学でこの先進むべき道を模索し勉強に励んでいる。

当時15歳の
柊翔さん

03

01 BASARE-Vol.5 登場

大久保 璃優さん Age:25

- ☐ 福岡を代表するホテルの
フロントマンとして働く
- ☐ 私にあった仕事だと感じている
- ☐ ホテル関係の業務全てが楽しい
- ☐ 職場は人に恵まれているので
続けることができています



Q. 九重を離れて気付いたことってある？

自然が豊かなところです。それと、九重っていい意味で自由だったんだなって思うことがあります。夏になれば家の前で花火を楽しんでたけど、福岡ではできないんですよ。当たり前にならなくて、こちらでは気を使うことが多いことに気付きました。

方言っていいですよ。方言を聞くと“帰ってきたな”って感じます。



Q. 九重の好きなおとこを教えてください

答えるのが難しいですね。好きなおとこがないわけではなくて、いざ聞かれるとなんて言ってもいいかわかんないですけど(笑)自分が九重に生まれてよかったと思います。九重で生まれ育ったからこそ今の自分があると感じています。言葉で表現するのは難しいくらい当たり前、どこがとか何がとかじゃなく、とにかく九重が好きなんです。

Q. 璃優さんにとって九重とは？

落ち着く場所ですね。自然体でいれるという意味で気持ちをオフにできる場所。帰省する時も、九重が帰る私を迎え入れてくれる感じがすごくするんです。九重は人の感じとかもあったかいので、帰ったら近所の人たちからも「おかえり」って言ってもらえて、その「おかえり」が聞きたくて帰ってるかも。

Q. 未来の自分、もしくは九重にメッセージを

未来の自分へ、故郷の九重を変わず大切にしたいです。だからこそ、九重も変わらずにいてほしい。良いところはそのまま心でどこかで変わって欲しくないという気持ちがあるんですよ。



← 実家の隣のおじちゃんです！

お久しぶりです!



同級生の二人が

02

BASARE-Vol.10 登場

梅木 蓮さん Age:20

- ☐ 鉄道関係の専門学校を卒業
- ☐ 車掌見習生として実務研修の日々が終了
- ☐ 車掌としての業務が本格的にスタート
- ☐ 小都市へ引っ越し一人暮らし

CHECK!



引治駅にて

Q. 未来の自分、もしくは九重にメッセージを

柊翔 未来の自分へ、今を精一杯生きること大事ですが故郷のことを忘れずに大切にしてください。

蓮 未来の自分へ、子ども達に憧れの仕事として夢を与えられるような自分でいてください。未来の九重へ、実家みたいに帰りたくなるような九重でいてください。

Q. 二人にとって九重とは?

蓮 九重は帰る場所ですね。家に帰るといより、九重に帰るといって考えになりました。これが終わったら九重に帰れる!って感じで、頑張るための目標にもなってます!

柊翔 それわかる!人や場所など含めて帰る場所、ふるさとですね。

蓮 やっぱ落ち着くんですよ。九重に帰った瞬間、スイッチが変わるんです。

柊翔 あと、ご飯が美味しい!

蓮 そう!実家に帰ったら、「あるもんしかないよ!」って言いながら色々準備してくれるんですけど、その「あるもん」がどれも美味しいですよ。

二人 九重最高!九重の田舎が好きです!



現場の休憩所で同期に会うと、
“お互い頑張ってるんだな”って
思ってた嬉しくなります。



車内巡回の時、み子様を手を振ってくれたんです。僕が子どもの頃も手を振ってたなって思ってた嬉しくなりました。



覚えること、やらなければいけないことが多いので今はまだ一杯一杯になることがあります。就きたかった仕事なので頑張ります!





東飯田の農道にて

BASARE-Vol.12 登場

森 柊翔さん Age:20

03

- ☐ 佐賀で一人暮らし
- ☐ 佐賀大学2年生
- ☐ 二郎系のラーメン屋でバイト
- ☐ ハマっていることは、
バンド、カメラ、トレーニング



BASARE再登場!



Q. 九重を離れて 気付いたことってある?

蓮》九重がどんだけいいところかって気付きました!

柊翔》18年間住んでいて正直、九重の良いところを考えたことなかったんですけど、離れて九重の良さに気付きました。

蓮》俺も!俺も!福岡に住んで1週間で分かった(笑)

柊翔》こういう場所は、作ろうとしても作れないです。

蓮》今は、九重の良さをどんどんアピールしてます!

Q. 一人暮らしをして気付いたことは?

柊翔》親のありがたさです!

蓮》俺も〜!体調を崩した時、マジで感じました。熱が出て動けなくても、実家だったら食べたいものを作ってくれるし、必要なものを買ってきてくれる。一人だと全てそれを自分でやらないといけないから。

柊翔》体調管理は気をつけるようになりました。



大学院も視野にいれ、
今後のことは考えています。



サークルの
軽音部では
ギターを担当しています。



生活費や趣味に使うお金を稼ぐためにラーメン屋でバイト! 賄いが食費削減に大助かりです。



❁ 中村商店街を歩けば
なんでもあった。

❁ 駅のキオスク
での角打ち！



❁ 野上中学校の
木造校舎が川沿いにある、
風情がありよかった。

❁ 登山口行きのバスの本数が
とても多かった。

雨に降られた
登山客が商店街で
服を買っていた。



❁ ボンネットバスが走っていた。
十三曲がりなどの
狭い道では、
バスガイドさんが
降りて交通整理を
してたなあ。



バスガイドさんが
降りて交通整理を
してたなあ。

❁ 小学校の授業で
映画教室があり、
商店街の映画館で、
モスラ対
ゴジラを観た。



みんなで自然を
守ってくれているから
大自然がまだ残って
いてすごいと思う。

人の優しさは
昔から
変わらんな～

四季折々の色がある
のが素晴らしいし、
夜空は今も昔も綺麗！

このえまち

祝70周年

町制施
70歳を



❁ 長野 隆喜さん

❁ 江藤 博通さん

❁ 吉武 恵子さん

❁ 赤嶺 君代さん

❁ 足立会館でダンスパーティーや
結婚式を行った。
❁ 恵良駅前の商店街が賑やかだった。
❁ 体育館は玖珠郡で最初にできた。
❁ 銅像祭や子ども祭りが
もつと賑わっていた時があった。



❁ 久大線を通る
汽車の種類に
よって音が違う。
ななつ星は力強い音、
かんぱち号は爽やかな音。
❁ 宝山や丸岳、青野山などの
山々の風景は変わらない。



やまなみハイウェイが
開通したことを覚えている。
庁舎も美しくなった！

野上地区

人生70年を
ふりかえって

❀伊東さん

ここまで自分ひとりでは
できなかったけど、
家族や地域の友達や
友達のおかげです。

❀菅原さん

15歳で大阪に行き
働きながら学校に。
ふりかえらずに前を向いて
やり通したことが誇り！

❀帆足さん

青年団や地域の友達がい
まだに支えになって
くれている。ありがたい。

❀井上さん

よくがんばったなあ。
でも今からモ
がんばらなやけどね！

地域をふりかえって
思い出すこと

歴代の町長に感謝。
財政がいいことが
素晴らしい！



❀伊東 宗喜さん

❀帆足 清文さん

❀菅原 由美子さん

❀井上 真智子さん

行70周年を記念し、九重町で生まれ
迎えた方々にインタビューしました。



東飯田地区

人生70年を
ふりかえって

❀長野さん

まだまだいろんな面で
頑張らなあかん。
1日1日を充実して大事にしたい。

❀江藤さん

70歳になったが、14歳まで生きる！
久住山で例えるならまだ6合目！

❀赤嶺さん

バスガイドをしていました。
小さな町でよく頑張りました！

❀吉武さん

楽しかったね！
あの頃の時代にしては
好きなことをさせてもらった。
バレーボールはまだ現役でやっています。



地域をふりかえって
思い出すこと

❀やまなみハイウェイの開通式で
東飯田小学校の鼓笛隊が出た。



吊り橋ができたことは
70年間で一番
心に残ってます。

昔と変わらない
素朴で田舎の雰囲気か
いつまでも
続くといいなあ。

町がこれからも
発展し続けて
ほしい！



地域をふりかえって 思い出すこと

❖ 宝泉寺の歓楽街が楽しかった。

❖ 宮原線は賃料が5円だった。

幼稚園時代は町田駅
まで汽車で通った。



❖ 運動会では

子ども達が竹を組んで
テント代わりの屋根を作った。
親はしゃーしいから準備など
できない。

❖ 子どもの頃は

幼稚園から
中学生まで
一緒に遊んで、
先輩から遊び方を
教わっていた。
外でよく遊んだ。

❖ 涌蓋山や小倉岳が

見えたら
“帰ってきたな”
と思う。



伝統的に各地区に
いい先輩がいることで
よい教えを引き
継いできた。



頼母子40年。
毎月楽しく
やっています♪

仕事で何年か九重を
出て戻ってきた時に
“静かでいい町だな〜”
とわかりました。



九重町と人が紡

❖ 富安 隆明さん

❖ 濱田 百合枝さん



❖ 赤峰 幸江さん

❖ 伊東 均さん

❖ 飯田にあったデパート。
(旧 近藤商店)

❖ 今も変わらない
飯田高原野菜の
美味しさ。

❖ 千町無田にあった商店街。
ひとつの町だった硫黄山。



❖ 飯田の
角打ち。

❖ 人、お店で
賑わっていた
町のお祭り。

❖ 昔は川で
洗濯を
していた。



これから皆が
移住したくなる
飯田でいてほしい!



南山田地区

人生70年を ふりかえって

❁ 小田原さん

このテーマで
1時間話せちゃうな〜！
大変いい70年でした！
頼母子でいろんなことを
共有しました。

❁ 吉光さん

47歳の時に大病をした時、
同級生がばーつと見舞いに
来てくれ心強かった。
家族とはまた別の
強い絆がある。

❁ 熊谷さん

18歳で町を出て65歳で
リターン。孫が10人いて
言うことないくらい幸せです！

❁ 木村さん

親が体調を崩したのをきっかけで
九重町に帰ってきたけど、
ご近所に助けられて
今日まで来たのかなと思います。



スキー場ができて
観光客も増えた。
地元の子どもたち
も授業でスキーが
できて楽しんでいる。



❁ 小田原 克也さん

❁ 熊谷 ますみさん

❁ 吉光 一幸さん

❁ 木村 節子さん

ぐ70周年の軌跡

飯田地区

人生70年を ふりかえって

❁ 濱田さん

70歳なんて信じられない。
今でも気持ちちは20歳！

❁ 赤峰さん

みんなそれぞれの違った
道を歩いてきて、
70歳になってもこうやって
集まって話ができることが
うれしい。

❁ 富安さん

仕事を頑張ってきた！
若い時に苦労して
よかったな。
そして今も頑張っている！

❁ 伊東さん

今は文明が進み
豊かになって
暮らしやすくなった。



地域をふりかえって
思い出すること

やまなみ
ハイウェイの景色は
今も昔もかわらず
自慢です！

人工物が写って
いない飯田の景色は
すばらしい！



老後になっても
付き合える仲間が
いるのは最高！



九重町の未来を

一緒に想像してみませんか？

今回、みんなの思い描く楽しく夢のある九重町の未来を共有するため、

『九重町の未来を想像してみよう！』というテーマでアンケートを実施しました。

「みんなの夢が溢れる町っていいな」「想像するのは自由よね」「こんな景色やこんな活動が九重町に広がっていたら・・・」

ワクワクするような未来は、想像しないと始まらない♪

立派な人間になる！

次世代の

子どもたちが

未来は明るい

と思える町を

つくること

宿をやりたい

お金の使い方に
気をつけて生活する

また虹が出る杖があるといいな

虹が出たら

絵を描く人

動物園の飼育員

獣医師

プロ野球選手

タクシー運転手

パン屋さん

服屋さん

ゲームデザイナー

ペットを保護する人

同居している祖母みたいに
可愛いおばあちゃんになる

24時間楽しめる
世界を作る

ユーチューバー

パティシエ

年をとってもたくさんの友達と
仲良く話し健康で介護施設等に
迷惑をかけなくて、終活を迎えたい

元返し
地恩

おうちの
梨園を
手伝う

鉄道
運転士

ペット屋さん

薬剤師

いつまでも健康で
色んなことに
チャレンジしていく

消防士

探掘家

好きなものに囲まれて過ごす

保健の先生

社長

楽しく過ごしたい

自然との
共存共生が可能な
ユートピア

一万円の人になる

ケーキ屋さん

豪華な30階建ての
家を建てる

子孫に
文化的遺産を残す

お金持ち

まずは、

みんなの夢を

聞かせてください

九重町が大分県で一番

イケてる

町になること

野球で
県大会に行く

宇宙飛行士
保育士
ゲーマー

お花屋さん

アイドル eOg 専属モデル

仕事をリタイアしたらのんびり暮らす

大好きなバレエを続けたい

九重町を元気にしたい

丁寧な暮らし

自衛官
ピアニスト

自宅で
最期を迎える

サッカー選手

人助け

メンタルケアの先生 フルーツ屋さん

少しでも長く家にいたい

九重の大自然に生きながら様々な場所
から多くの人からの来訪を受けること

韓国アイドル
美容師

調理師

学校の先生

ホッケー選手
放浪の旅に出る

健康に長生きする

家庭円満

全ての人の心境を理解でき
その人々にアドバイスを行う(自分に)

若い子たちが
地元離れしないで
残ってくれる町

全世代が住みやすい町

耕作放棄地のなかで比較的ロケーションが良く広いところを整備し、

引退したプロスポーツ選手に就農してもらう

仕事以外の時間に地元の子どもたちにスポーツのコーチングとかも
できるし、農業面・社会教育面でもプラスになるはず！

人も資源も枯渇しない九重町を未来に残したい！
「あ～九重町民でほんとよかった～」と思える町
つまりそれは身も心も満たされていて周りの環境
(自然も人)もイキイキとしている状態が継続する町

九重町の大自然と
温泉のある我が町が
好きです！
未来は、地熱発電所を
大企業と建設して
全世帯の電気料金を
無料！

10年後、20年後、
どんな九重町に
なっていたらいいな
と思いますか？

若者が活躍する九重町！

住民が仲良く
互いに助け合いながら暮らせる町

若者もシニア世代も
不安のない
安心して暮らせる町
(災害も含め)

郷土料理や、その土地特有の歴史
(南山田地区ならおぐら神社のお祭りなど)を
10年、20年後にも伝えていきたい

林業や農業、また自然研究等で
学生や若い家族がこの町に増えて
活気が戻ることを期待しています

子どもたちの笑顔

国際色豊かな
秩序ある田舎

子どもたちが溢れかえっている九重町になって欲しい!
そのために**今の大人たちが未来のために今から
行動できる九重町にならないといけない**

世界各国より多くのお客様が来ることで、
農商観連携が確立でき町民全体で
豊かになっている町

多文化交流で
町にとって
良い進化が
あるといいな

教育・子育てに特化した
町になってるといいな

昔のように
広い草原に
豊後牛が
復活していれば
嬉しい

医療や
交通等が充実した
暮らしやすい町

老若男女が気軽に集まって、
ワイワイと九重町の
いろんなことを
話せるような環境に
なってほしいです!
観光施設などが増えていてほしい

美しい自然の景観を守る
地区ごとのコミュニティの
活性化と伝統行事の継承

誰1人取りこぼす事なく
寂しい思いをさせない町

年齢関係なく独居の方に寂しい思いをさせたくない
少ない年金で生活しているご高齢の方、働きたいけど
運転免許証が無い、体は動くけど体力に自信がない
でも1~2 時間程度なら働ける、そんな方々を救いたい!
九重町の道の駅を作り、そこにマイクロバスの送迎つきの
「お仕事」をつくる!道の駅に行けば誰かいる、
話し相手にもなるし、生存確認にもなる!

働く=運動 という考え!

幼児から中学生が
同じ場所で集まる
場所(学校など)

移住者が
増えてくれるといいな

豊かな自然に
DXが溶け込んだ町
温泉、水、風の町、九重町
地熱、水力、風力を利用した
発電所を設置し町民には無償

人口が増えて子どもが多い住みやすく便利な(スーパーや病院、学校が身近にある)町

みんながゆつくり過ごせる公園

どこ〇もドア

専門医が揃った
滞在型の病院

無料のシャトルバスみたいなもの
そして温泉を各家庭につなげたら最高！
別府みたいに

タ〇コプター

生まれ育った居住地を移すことに
抵抗はありますが、
将来のことを考えると、コンパクトシティ化して、
歩いて病院やスーパーに行ける
便利な町になるといいな

自然を壊さずにつくれるバイパス

最先端医療と買い物が同時にできる
ホスピタルショッピングセンターに
行けるタクシーのサブスク
特典付き乗り放題！

自家用車が
無くても生活できる所

未来の九重町にあると
便利なもの、
それはどんなもの？

町長、議員、偉い人などの
立場関係なく、町民みんなが
気軽に書き込める
共有の掲示板とか欲しいなあ、
様々なコメントが飛び交う
活発な掲示板になるといいな

一瞬で家に帰れるマシン

勉強をしてくれる
ロボット

町に管理された貸し農地、
家畜の共同飼育場(預け飼育場) 山羊、羊のペット化と販売

九重町内全てをつなぐ地下鉄

ボタンを押したら
バイクが出てくる
リモコン

九重町内版のA〇azonのようなもの！
九重町内でアプリケーション等
何かしらのシステムを導入し、
1日1回等の制限を設けて注文すれば
その日のうちに届けるというサービス

安全で子どもたちの成長の役に立ち
楽しめる公園、大型商業施設

バス・電車の本数を多くしたり、
各交通機関をつなぐために、
時間を合わせたりして、
車無しでも移動できたらいいな

九重町全体が回遊可能な
交通機関

未来の九重町に こんな活動があったら 楽しいだろうな♪

「リーグ加盟を目指した
日田市・玖珠町・九重町を中心とした
地域サッカーチーム

いろんな国の人たちと

交流できる

多様なバンザイな

取り組みがある活動

全体でやる
なんでもありなお祭り

電気を頼らない
生活体験ができる
お宿があったら面白いかも？

方言の復活と発展

Pay it forward「恩送り」
海外のある国では、自分が受けた恩を
次の見知らぬ人に返す習慣があるようです
みんながこの精神に賛同したならば
世界は平和になるでしょうね

集まるよイベント
多口の人な
人口よりも

国や行政に頼らない
コミュニティを作り、
その中で悠々自適に暮らす

毎年一回は時代を
引っ張るような
著名人を呼ぶために、
町民アンケートをし、
アンケート上位の人から
九重町に招待し、
その思想や活動理念や考えを
学ぶようなイベント

「目指せ！九重町民総特派員化計画！
～あなたも今日から九重アンバサダー～」

町民全員を対象とした伝える力、
プレゼン力の向上事業を長期的に、
こんな活動もできると楽しそうですね
いずれは玖珠町と一緒に…

議員・町長になって町を
盛り上げてみたい！
住民の暮らしを支える
仕事をしたい

地元を拠点にして働いてみたい

子育て世代や
シニア世代たちが
過ごしやすい町に
してみたい

多国籍
読書カフェ

地熱を有効活用し、施設園芸導入、
若い後継者が残れる
集落を作りたい

未来の九重町で
やってみたいこと♪

誰でもが町を
活性化させることが
できるプレイヤーになれると思っているので、その実体験を
行う手助けを、自分のノウハウを使ってしていきたい

イラスト付きの別紙も、
ぜひご覧ください。

みてね！



皆さまの描いた「未来」が
これからも様々な幸せの形で
溢れますように。

そして、

新しい「BASARE」として
お会いできることを楽しみに。

「ほなね」



BASARE

九重からこのえへ

「九重からこのえへ、しあわせのおすそわけ」をテーマに、ふだん着姿の
たくさんさんのいいもの・いい人を町の人が発見し、まちの人へ伝えるフリーペーパーです。
*バサレとは、大分の方言で「たくさん」という意味です。



発行日：2025年3月15日 発行人：九重町公民館 BASARE プロジェクト
本書への問い合わせ先：九重文化センター 大分県玖珠郡九重町

TEL：0973-76-3888 Mail：bunka@town.kokonoe.lg.jp
Facebook ページ：https://www.facebook.com/basare.kokonoe/

バックナンバーは九重町 HP からご覧いただけます。本書は、無料で配布しております。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することを禁じます。Printed in Japan © Kokonoe Town.

二次元コードから
九重町バサレページに
ジャンプします。

